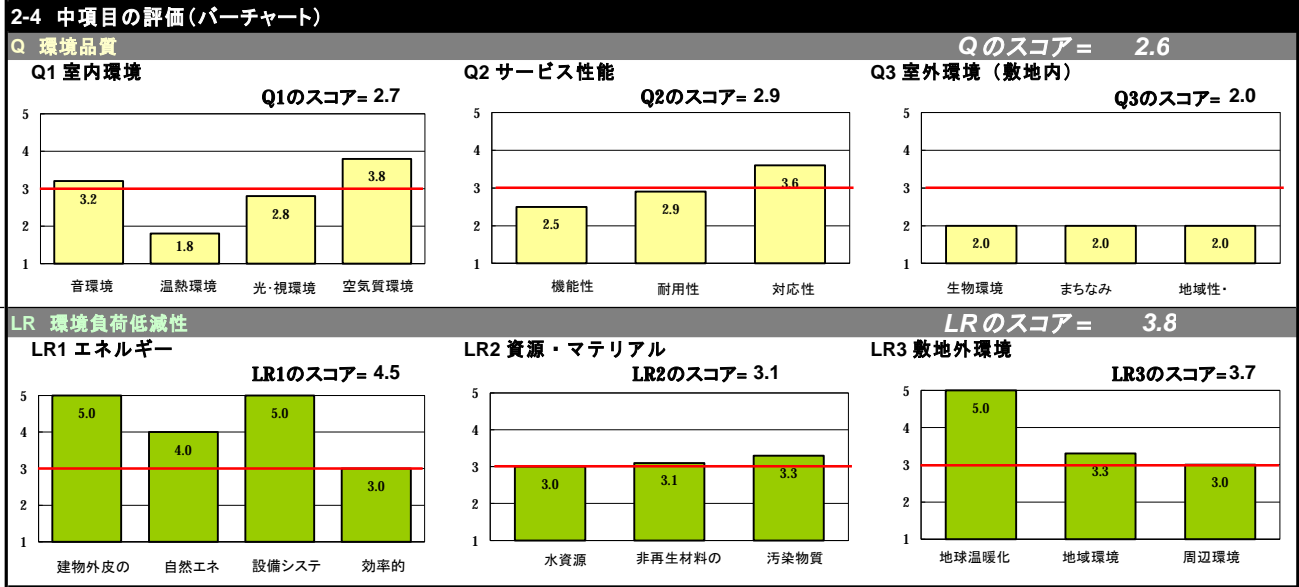
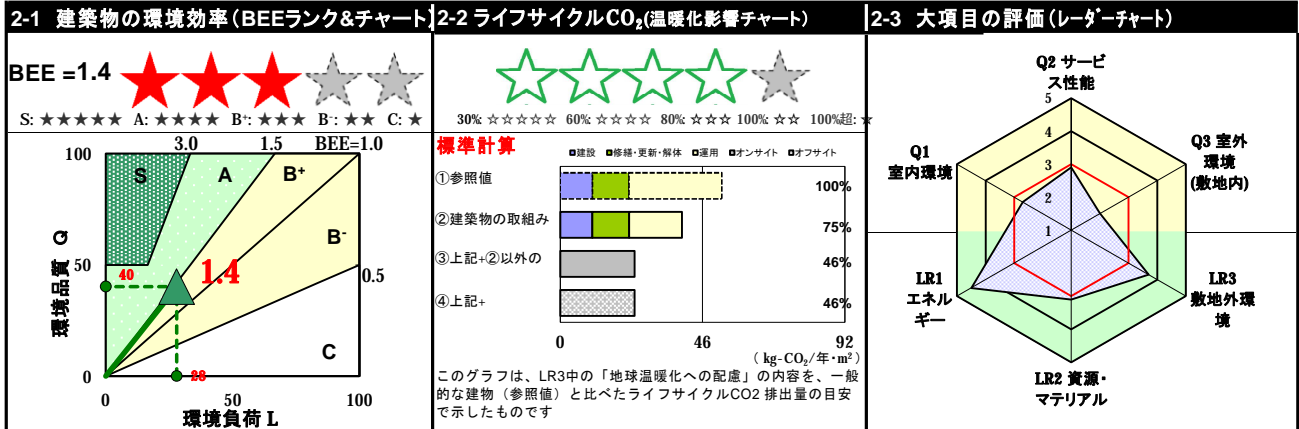


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北認定こども園建設工事	階数	地上1F
建設地	大阪府松原市別所	構造	木造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年12月10日
敷地面積	4,910 m ²	作成者	山本 隆明
建築面積	2,300 m ²	確認日	2023年12月20日
延床面積	2,260 m ²	確認者	松原市長 澤井宏文



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO₂排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>		<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>開口部遮音性能:T-2以上。トップライトを利用している。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>ステンレスダクトを使用している。給水VP(B)、排水VP(B)、冷媒管(C)、Eは不利用。階高:3.9m以上。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>特になし。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI=0.44。BEI=0.06。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LGS使用している。ODP=0。GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率が46%。燃焼機器を使用していない。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)北認定こども園建設工事					
	建設地	大阪府松原市別所					
	用途/区分	学校(大学等)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					5	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					報告しない	
【評価項目】							
	項目	評価内容				スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				5.0	5
②	みどり・ヒートアイランド対策						
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	2
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				2.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない
その他							
		技術の名称	考慮事項				
	先進的技術の導入						
	特に配慮した事項	特になし。					